

令和 6 年度 県立大子清流高等学校自己評価表

目指す学校像	人間尊重の精神を基盤に、社会の変化に主体的に対応できる、個性的で創造性や国際性に富む、心豊かな人間を育成する。 ○一人一人の生徒を大切にし、対話を基本としたきめ細かな教育を行う学校 ○自分の将来を深く考え、主体的に進路実現ができる能力を育む学校 ○地域と共生し、地方創生に貢献できる教育を行う学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○人間尊重の心を持ち、社会の変化に主体的に対応できる、心豊かな人材 ○自分の個性を大切にし、対話による高いコミュニケーション力を持つ人材 ○自分の将来を深く考え、主体的に進路実現ができる人材 ○地域の魅力を理解し、地方創生に貢献できる人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○地域の農林業の特性を生かした教育課程による、多様な進路希望の実現 ○生徒の幅広いニーズに対応した教育課程による、就職から進学までの進路希望の実現 ○高齢化社会と地域の要望に応じた実践的な教育課程による、福祉系の進路希望の実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○夢を実現するための確かな学力を育もうとする生徒 ○豊かな心と健やかな体を育もうとする生徒 ○時代の変化やグローバル社会に対応しようとする生徒 ○地域と連携し、地域貢献に努めようとする生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
大子一高・大子二高の歴史と伝統を引き継いで誕生した本校は、昨年度第 18 回目の卒業生を送り出した。ICT を積極的に使用した課題解決に向けた学習と進路指導により、大学進学者 8 名、公務員 2 名を始めとし、進学・就職に良好な実績を残すことができた。多様な進路希望を実現できる確かな学力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取り組みを一層推進し、生徒の学習意欲の向上に繋	確かな学力を育む、学習指導の推進	● 主体的学習態度の育成 ・学習意欲を喚起し、「主体的、対話的で深い学び」を実現するための授業改善 ・言語活動の充実及び教科横断的なカリキュラムマネジメントの実践 ・課外授業・公営塾への参加促進及び Classi などの ICT の活用等による家庭学習の習慣化 ● 学習指導の充実 ・ICT の活用、少人数授業等による基礎学力の向上及び確かな学力の育成 ・課題解決能力を向上させるための、魅力ある実習及び課題研究の実践	A

別紙様式 2 (高)

げている。 さらに、創意工夫を活かした特色ある教育活動の推進を目指し、県より重点校の指定を受けた、チャレンジプロジェクトを実践しており、オオクワガタの養殖・販売や異文化交流、ドローン講習や福祉実習など、様々な探究活動を通して問題発見・解決能力が伸長している。 しかし、部活動においては、生徒数の減少により、存続危機の部もあるため、部活動の再編を図りながら、さらなる活性化が求められる。 また、開かれた学校づくりに向けた、ホームページの充実、「清流だより」の配付や「広報 DAIGO」への学校紹介等の掲載を行っているが、地域、県内、県外の中学生・保護者への浸透はまだ十分ではない。 急激な中学校卒業生徒数減少の中、本年度も昨年同様に地元大子町出身者の過半数の志願を得られなかった。令和 4 年度から本格的に実施された大子町中高連携事業への積極的な参画により、公営塾による学力向上、総合的な探究の時間に「だいが未来探究」を計 3 単位とする教育課程を編成することにより総合学科の全国募集の開始と中学校教員、地域住民への積極的な説明、保護者への情報発信に努め、地元大子町及び近隣市町村、全国からの志願者を増やしていく必要がある。 そのために、職員が働き方改革をより一層推進しつつ、生徒の特性に応じた効果的な教育活動が行える体制を整備し、多様な進路希望の実現を図っていく。加えて地域社会活動等に積極的に参画し、日頃の学習成果と本校の魅力を広く周知し、地域創成を担う学校構築を目指していく。		・農林科学科の特性に対応した組織的、系統的な指導体制の構築 ・指導と評価の一体化のための、観点別学習状況評価の推進	
	豊かな心と健やかな体を育む、特別活動及び生徒指導の推進	● 道徳教育・特別活動の充実 ・「公共」の授業や特別活動の場面を中核とする学校活動全体を通じた道徳教育の実践 ・生徒会・各部・各委員会活動の活性化による「豊かな心」の育成 ・ボランティア等の体験活動の推進による「他人を思いやる心」の育成 ● キャリア・パスポートの充実 ・主体的に目標を設定し、校内外の諸活動において体験したことや考えたことを表現する力の育成 ● 生徒指導の充実 ・自己指導力の育成による基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚 ・面談等による生徒理解の推進及びカウンセリングの充実	A
	時代の変化やグローバル社会に対応できる、進路指導の推進	● 進路指導の充実 ・進路希望に対応した、組織的、体系的なキャリア教育の充実 ・国公立大学に進学できる学力をつけるための授業実践と課外授業の推進 ・企業訪問・大学見学会・講演会等による、望ましい職業・勤労観の育成 ● 国際教育等の充実 ・国際交流事業等の充実による、異文化並びに自国文化理解教育の推進 ・グローバル社会で活躍するための、多様性の涵養並びに挑戦心の育成	B
	保護者や地域との連携及び本校教育活動に関する情報発信の推進	● 保護者・地域・小中学校との連携や交流の推進 ・地域との連携による地域人財の積極的な活用（「だいが未来探究」「学校外学修」で実践） ・地域や小中学校との積極的交流による、地域に開かれた学校づくりの推進 ・大子町との連携・協力の強化、支援を生かした教育・広報活動の展開 ● 教育活動等の情報発信の推進 ・「清流だより」の配布、学校 H P、「地域みらい留学」等の Web コンテンツを活用した広報活動の充実 ・学校説明会の充実並びに積極的な学校公開・学校訪問の実践	A
	生徒の特性に応じた教育の推進	● 適切な生徒理解による個別支援とインクルーシブ教育の推進 ・適切な生徒理解と教育的ニーズに応じた個別支援の充実 ・インクルーシブ教育実践のための関係専門機関との連携及び研修の推進	A
	働き方改革の実践	● 業務の効率化による働き方改革の推進	A

別紙様式 2 (高)

			・業務の効率化及び意識改革による働き方改革の推進 ・積極的な休暇取得の推進		A
		授業改善の推進	● 学習意欲向上の推進 ・「身に付けさせたい力」を意識し、授業のねらいの提示と授業振り返りの実践 ・教科や領域に応じて適当に ICT 機器を活用するなどし、より深い学びにつながる授業の推進 ・生徒による授業評価（４段階）において、授業満足度（KPI）3.4 以上を目指す		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	基礎的・基本的な知識の定着を図る。	漢字テストや知識事項の小テストを行い、反復学習を通して知識の定着を図る。	A	A	・漢字検定実施率の向上 ・指導と評価の一体化 ・個別最適な学びによる基礎学力の向上
		生徒の実態に合わせた教材の選定を行い、ティーム・ティーチング等を通して、生徒をきめ細やかに指導できる授業を行う。	B		
	伝え合う力を育てる。	グループワークや発表等を通して他者に自分の考えを分かりやすく伝える方法を考えさせる。	A		
		他者の意見を傾聴する時間を取り、自分の意見を深めることができるようにする。	A		
	進路指導の充実を図る。	志望理由書など文章の添削指導や面接指導を通して、生徒の志望進路実現に努める。	A		
		生徒の志望進路に応じた課外や補習を行う。	A		
	ICT 教育の充実を図る。	電子黒板やタブレット等電子機器を活用し、主体的で対話的な学びが深まる授業ができるようにする。	A		
		プレゼンテーションの準備等を通して社会に出た際に必要な情報選択能力や論理的思考力を養う。	B		
		生徒の主体的学習を ICT により実現し、他者と協働して問題を解決する力を育む。	A		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。	A		
地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	学科・系列・クラス等の実態に合わせた授業を行う。	A	A	・指導と評価の一体化を進める。 生徒の学びの状況を適切に見取
		授業内で定期的な学習内容の振り返りを行う。	A		

別紙様式 2 (高)

		授業内の課題や家庭学習課題、小テストなどを課すことで、理解の定着を図る。	A		り、生徒の学力向上と教員の授業の改善に役立てる方法を研究する。 ・生徒の学びへの意欲を喚起する教材や授業方法を研究する。 ・個別最適な学びや協働的な学びの在り方を研究する。
	学習指導法の研究・実践に努める。	副教材・視聴覚教材・実物教材・ICT を効果的に利用した授業を展開する。	B		
		ペアやグループでの学習、記述、論述、説明、問題演習など多様な授業を単元のねらいや生徒の実態に応じて展開し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。	B		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。	B		
数学	基礎学力の向上に努める。	生徒の学び直しを進め、基礎学力の向上に努める。	A	A	・個別最適な学びの実践方法の研究・実施 ・課外授業の充実化 ・数学検定の実施率を向上させる
		定期的に課題を提示し、家庭学習を通じて振り返り学習を促す指導を行う。	B		
		数学検定を年 2 回開催し、合格率向上のため課外等で対策を行う。	B		
	進路指導の充実を図る。	生徒の希望進路や学習意欲に応じた課外を継続的に実施する。	B		
		四年制大学・短期大学・専門学校・公務員試験等の出題内容を分析・研究し、生徒の進路実現に資する指導を行う。	A		
	教科指導力の向上に努める。	資質向上研修などに積極的に参加し、授業力の向上を目指す。	A		
		ICT 機器を効果的に活用した、生徒の理解を深める授業実践を行う。	A		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。	A		
理科	基礎学力を定着させる。	授業後に振り返りや小テストを行うことで、基礎学力の定着を図りつつ、学習内容の定着を把握し、必要に応じて補習を実施するなど生きて働く「知識・技能」の習得を目指す。	A	B	・課外等を通した大学進学者の基礎学力の向上 ・自主学習の促進
		教員間の授業公開・参観、各種研究会への参加を通して、指導力の研鑽を積む。	A		
	生徒の学習意欲を喚起する授業を行う。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を図るため、研修や相互の授業参観等を行い、「わかる授業」の実践を目指す。	A		

別紙様式 2 (高)

		日常生活や社会との関連を授業で取り扱うことで、社会の変化に対応できる「思考力・判断力・表現力」を身につけさせる。	A		
	自主学習の習慣化など、主体的に学ぶ態度を育成する。	副教材や配付資料などを精選し、適切な課題を課すことで、自主学習を促進する。	B		
		実験・観察を通して、自然現象への興味・関心を高め、基本的な「実験・観察の技能」を習得させる。	B		
	さまざまな希望進路に応じた指導を行い確かな学力の育成を図る。	I C T機器や動画等を活用した授業方法を研究し、生徒の授業理解の手助けとする。	A		
		大学進学希望者への平常時や長期休業中の課外を通して、さらに高い学力を身に付けさせる。	B		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 60%になるよう授業改善する。	A		
保健体育	生徒の実態を把握した学習指導計画の充実を図る。	地域や学校の実態に即した学習内容および系統的な指導計画の工夫をする。	B	B	・生徒の実態に応じて種目の選択をしながら、安全に体育活動を実施することができたため、継続していきたい。 ・体育館の Wi-Fi 環境を活かして、ICT を活用した授業を研究していきたい。 ・生徒の意欲向上のために評価基準と評価方法をさらに研究していきたい。
		運動の喜びや楽しみを理解させ、内容の習熟に意欲的に取り組む指導計画の工夫をする。	A		
	健康で豊かなスポーツライフを育む評価の工夫を図る。	評価基準と評価方法を工夫し、具現化する。	B		
	豊かなスポーツライフの基礎を培う体育学習の工夫を図る。	集団行動の指導を重視する。	A		
		自ら体力を高め、自発的に運動の学び方や技能の習得に取り組むような学習方法を工夫する。	A		
	自らの健康を適切に管理し、改善していく実践力を培うための保健学習の充実を図る。	課題学習や調べ学習による自主的・自発的学習を促進する。	B		
		多様な体験的、実践的学習の活用による学習を工夫する。	A		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。	A		

別紙様式 2 (高)

芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	芸術の多様な領域・分野を扱いながら、生徒が主体的に取り組むことができる学習活動を計画・実施する。	A	A	・生徒が主体的に取り組める題材の設定を継続する。 ・ICTを積極的に活用した授業を展開する。
	感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	芸術に対するとらえ方や考え方を深化させたり、それらを自ら表現したりできる学習活動を工夫する。	B		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。	A		
英語	英語への興味・関心を高める。	ALTと協力し、英語や異文化に触れる機会を多く設ける。	A	B	・英語の基礎力(中学校英語レベル)の定着を図る。 ・個別最適な学びの実践方法を模索していく。 ・積極的な ICT 活用。 ・検定試験(英検)の受験者を増やす。
		積極的な辞書指導を行い、英語への興味関心を高める。	B		
	上級学校進学に必要な英語力を身につける。	クラスルームイングリッシュを多く使用する。	C		
		継続的な週末課題や小テストの実施、副教材の効果的な使用によって自発的な学習意欲を高め、家庭学習を習慣づける。	B		
	コミュニケーション能力を育む。	ペアワークやグループワークを通し、自分の表現したいことを相手に伝える力を育む。	B		
		自国の文化や興味のある事柄について、他者に伝えるための十分な知識を深める。	A		
		パフォーマンステストを年に 2 回以上実施する。	A		
	外部検定試験受験を推進する	英検対策の課外を充実させ、各級の保持者数の目標を次のように設定する。 2 級保持者：在籍生徒の 3% (今年度は 4 名)、準 2 級保持者：在籍生徒の 5% (今年度は 6 名)	A		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。	B		
家庭	日常生活に必要な知識と技術の習得を図る。	日常生活に活かせるような内容を設定し、実践的学習の充実を図る。	A	A	・資格取得者の育成に努め、生活を営むための基礎的・基本的な知識や技能を身につけさせる。 ・外部との交流を図り、フィールドワークを取り入れ、生活
		生徒の実態に応じた授業や実験実習に努める。	A		
	体験学習の充実を図る。	幼稚園等での保育実習や外部講師によるマナー講座など体験学習の充実を図る。	B		
	資格取得の促進を図る。	学科の特性を活かした資格取得のための指導を通して、関心・意欲を高める。	B		

別紙様式 2 (高)

	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。	A		課題や地域課題を発見し、解決する力を育成する。
福祉	基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	基礎的・基本的な知識と技術が習得できるよう、教材の工夫に努め生徒一人ひとりに応じた授業を展開する。	B	A	・実習先と連携を図りながら実習を終えることができた。 ・生徒の実態に合わせ基本的な知識と技術が習得できるようさらに「わかる授業」の工夫を研究していきたい。 ・地域の社会資源を活用しながら地域福祉への関心を高めるだけでなく、地域住民にも福祉系列への理解を深められる機会を設けていきたい。
	生徒が主体的に学習できる学習活動の工夫を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行い、生徒の「わかる授業」の実践を目指す。	B		
		施設での実習、国際福祉機器展見学会など、実践的な学習の充実を図る。	A		
	ICT 教育の充実を図る。	I C T機器や動画等を活用した授業を展開することや、実習報告会の際にパワーポイント作成を通して、生徒に思考力・判断力・表現力を身につけさせる。	A		
	地域福祉理解に努める。	実習施設と連携し町内の高齢化率や福祉施設への理解を深め、地域福祉への関心を高める。	A		
	資格取得の促進に努める。	介護初任者研修の修了を目指す。	A		
		実務者研修の修了を目指す。	A		
	福祉マインドの育成を図る。	JR 東日本水郡線福祉体験、VR 認知症体験、ダイアログインザダークでの体験学習等を通して高齢者・障害者理解を促し福祉マインドの育成を図る。	A		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。	B		
農林科学	農業・林業教育の充実と地域と連携した農業教育の推進に努める。	実践的・体験的な学習を通して、情報化社会に対応した魅力ある農業教育を推進する。	A	A	・安全を念頭に置いた実習の実施と、施設・設備管理の徹底。 ・I C T機器の利用促進。 ・実践的・体験的な学習活動の追求。
		農業学習の特質とプロジェクト学習の意義や進め方について理解させ、生徒の興味・関心を高める。	A		
		農林業の各分野について基礎的、基本的な知識と技術を習得させる。	A		
		農林業に関する幅広い資格取得環境を整える。	A		
	農業クラブ活動を充実させる。	農業クラブの目的を理解し、学校生活の柱としての活動の場を整える。	A	A	
		様々な活動を通して科学性・社会性・指導性を高める。	A		

別紙様式 2 (高)

		体験的な学習を通してプロジェクト学習を活性化させ、生徒の健全な心と生活態度を育成する。	A	A	
	職業人として、意欲的で人間性豊かな人材を育成する。	働くことやものづくりを通して、意欲的で人間性豊かな人材を育成する。	A		
		農林業の社会的な意義や役割についての理解を深め学習意欲の向上を図る。	B		
		地域の農林業について理解をし、地域との連携を継続的かつ積極的に実施する。	A		
	圃場及び演習林の管理と整備促進する。	安全な実験実習の環境（圃場・演習林）の整備を図る。	A		
		圃場の活用と農業機械学習の促進及び、圃場・演習林の活用と専用機械学習の促進を図る。	A		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。	A		
教務	授業のスキルアップ	お互いの授業を公開することで、授業のスキルアップを図る。	A	B	・入学者を増やすため、学校の魅力を伝える等広報活動について検討を図る。 ・ICT を活用するなど生徒の家庭学習意欲を増進させるための方策を図る。 ・授業での図書館利用を促進できるよう教科の学習で活用できる選書を行う。
		学習指導の充実に繋がる観点別学習状況評価の推進を図る。	B		
	学習意欲の涵養	ICT を活用する等教材等を工夫し、生徒の学ぶ意欲の向上を図る。	A		
	ICT 環境の整備	授業や探究活動などにおいて、ICT を活用し深い学びができるよう環境を整える。	A		
	家庭学習の習慣化	家庭学習の習慣化を図るため、Classi 等のオンライン教材の活用を推進する。	B		
	広報活動の活発化を図る。	HP、ポスター、学校だより「清流」、クリアファイル、学校案内等の充実を図る。	A		
	図書館の利用推進	幅広い分野からバランスを考え、生徒に有意な選書を行う。	A		
	図書館の環境整備	希望図書アンケートを実施し、役立つ図書を購入する。	A		
		新着図書を速やかに貸し出せるようにする。	A		
	図書館の利用推進	生徒の声を活かし、利用しやすい図書館づくりを行う。	A		
生徒指導	生徒の実態を把握した生徒指導体制の充実を図る。	いじめ、自殺、不登校、中途退学、暴力行為等の問題行動の未然防止と組織的かつ迅速な対応に努める。	A	B	・指導を受け入れない生徒への対応と保護者への学校教育に対する理解の促進。 ・服装、頭髪等の指導の徹底や
		情報の共有化と共通理解による行動連携の充実を図る。	A		
	生徒の自己実現を促す指導・援	生徒が存在感や所属感を実感できる学級づくりの支援に努める。	A		

別紙様式 2 (高)

	助の充実を図る。	生徒と教師、生徒相互の好ましい人間関係づくりの推進を図る。	A		改善までの指導の一貫性。 ・生徒指導に関わる職員研修の機会を増やす。 ・生徒指導に関する情報共有と生徒の人間関係形成能力の育成。 ・生徒指導に上がる前段階で「ダメなことはダメ」ということ徹底して指導する。 ・校種間連携やＳＣとの連携を強化し、より効果的な活用を進める。
		生徒指導上の課題に対応した校内研修や事例研修等の実施に努める。	A		
	規範意識の高揚と公共マナーの向上を図る。	教師と生徒の日頃の人間的なふれあいの中で「ダメなことはダメ」の指導の徹底と自己抑制力の涵養を図る。	B		
		服装・頭髪などの指導に対する共通理解の確立と指導の徹底を図る。	B		
		基本的生活習慣の定着（特に遅刻防止）とマナーアップに向けた取り組みの充実を図る。	B		
	教育相談の充実を図る。	生徒の特性に応じた、一人一人の心身のよりよい発達を促す指導・援助の推進を図る。	A		
		生徒に応じた教育相談体制の構築を図る。	A		
		スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を図る。	A		
	家庭や地域社会、関係機関との連携を図る。	学校と家庭、地域社会、関係機関との情報共有および行動の連携を図る。	B		
		校種間連携の充実を図る。	B		
	交通安全指導に努める。	バイクの実技講習、バイク・自転車の定期点検等を実施し、事故防止の啓発を図る。	A		
進路指導	生徒一人ひとりの進路目標実現のために適切な援助をする。	各学年団との連携を緊密にして進路指導を進める。	B	B	・各学年会議で進路関係の報告をする機会を作り、学年との連携を深める。 ・早期離職者を減らすための方策を立てる。 ・共通テストおよび総合型・学校推薦型選抜（公募制）の対策を充実させる。
		低年次よりキャリア教育を推進し、職業観・勤労観を育成する。	B		
		担任や学年の枠を超えて、進路指導部として個に応じた進路相談を行う。	B		
	地域の企業・事業所との連携をさらに密にする。	企業・事業所を継続的に訪問することで密な関係を構築・維持する。	A		
		他分掌と協力し、生徒参加型の活動（未来探究やインターンシップ等）を充実させる。	B		
		大子町やハローワークと協力し、町内の企業説明会を開催する。	A		
	生徒・保護者およびクラス担任に適切な進路情報を提供する。	各学年団にふさわしい各種ガイダンスや研修会の開催および資料提供を行う。	B		
		進路指導部員の定例会議を実施し（月１回程度）、情報を共有する。	A		
		定期的に「進路だより」を発行する（年１０回以上）。	A		

別紙様式 2 (高)

特別活動	他者と協働する集団活動を通して、よりよい人間関係を形成し、自他を尊重する態度を養う。	特別活動を通じた道徳教育を充実させ、生徒の資質、能力の向上を図る。学校行事の意義や育みたい資質、能力を明確にし、生徒に意識させる。	B	B	・生徒の自主性や主体性を生かした特別活動の実現。 ・特別活動における指導と評価の一体化。 ・生徒の実態にあった学校行事や生徒会活動の実施体制や組織、内容の不断の見直し。 ・生徒の自己有用感の醸成。 ・成果と課題を適切に把握できる方法の確立。
	集団や自己の課題を解決する能力と合意形成を図りながら、主体的に社会に参画する態度を養う。	学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動を相互に関連付けるとともに生徒の自発的、自治的な活動を促す。	B		
		探究活動の成果を学校行事で発表する機会をつくり、学校や地域の活性化に貢献する。	A		
	特別活動を通して生徒の自己有用感を高め、自己の在り方、生き方について考えを深める。	キャリアパスポート等を活用して特別活動の事前・事後指導を充実させる。	B		
保健厚生	健康を保持し、増進させるための知識を育てる。	健康教育講話等の実施と事後指導を充実させる。	B	B	・野球応援が安全に実施できるように特別活動部との連携を図る。 ・校内の環境美化への意識を高める。 ・部内での情報共有を徹底する。
		保健関係資料等を活用し、生徒の健康教育の充実に努める。	A		
	自他の生命を尊重する安全意識を育てる。	防災訓練を実施し、災害時に対応出来る力をつける。	B		
		教職員対象の防犯訓練を実施する。	B		
		職員・生徒向けの救命救急講習会を実施する。	A		
	よりよい校内環境づくりのための整備と工夫に努める。	校内の環境美化・安全の啓発を行う。	B		
		委員会活動において校内の環境美化に努める。	B		
渉外	学校と家庭の連携を図る。	P T A総会・評議会・専門委員会、学年P T A等運営の活性化に努める。	B	B	・P T A総会等への出席率の向上。 ・役員になっていただける保護者の確保。 ・広報活動の充実。
		会報「清流」の発行や保護者通知等、広報活動の充実に努める。	B		
	関係機関や地域との連携を図る。	登校指導・巡回指導等、学校と家庭と地域社会が一体となって、生徒のマナーアップや規範意識等社会性の向上に努める。	B		
		関係機関や地域の声を聞き、生徒の健全育成に生かす。	A		
	P T A会員の教育活動への積	学校行事や視察研修等、会員の積極的な参加を促し、会員相互の親睦を図るとともに、教育	B		

別紙様式 2 (高)

	極的な参加を推進する。	活動の一層の推進を図る。			
第 1 学年	生活面の指導の充実を図る。	公共マナーを遵守させる。	B	B	・生活面では、一部生徒の改善が見られず、家庭との連携をもっと密にする必要がある。 ・学習面においては、6 割以上の生徒が GTZ の D ゾーンと基礎力の向上が必須である。課外等への参加率向上が必要である。 ・特別活動に対する意識は高い状況であり、より事前事後の指導の充実が必要である。
		挨拶・返事・清掃の指導を徹底する。	B		
		良い基本的生活習慣を確立させる。	B		
	学習面の指導の充実を図る。	進路に対する意識づけをする。	B		
		家庭学習を習慣化させる。	B		
		授業を受ける態度を意識させる。	B		
		課題の提出を徹底する。	B		
	その他の活動の充実を図る。	学校行事・部活動・特別活動へ積極的に参加させる。	A		
		スマートフォン・タブレット等の正しい使用を指導する。	A		
		他者との協働を推進する。	A		
第 2 学年	社会を意識した態度の育成を図る。	一般社会を意識した行動やマナーを実践させる。	B	A	・進路実現に向けた取り組みの中で、社会を意識した態度を育成していく。 ・公共の場にふさわしい言葉遣いや服装を選択できるようにする。
		修学旅行等集団行動の指導をとおり、他者との協働を図り、自律と献身を実践させる。	A		
	授業態度の向上を図る。	授業をとおりして時間を守ることを習慣化させる。	B		
		授業を大切にすることを習慣をつける。	B		
	進路意識の高揚を図る。	進路関係行事を充実させ、進路への意識を高める。	A		
		面談機会を増やし、次年度の進路決定に向けた準備をする。	A		
	挨拶・返事・清掃の励行を図る。	挨拶・返事・清掃を習慣化し、定着させる。	A		
第 3 学年	進路実現を図る。	基本的生活習慣を継続し、社会人としての心構えとする。	B	A	・進路指導に絡めた服装指導や公共におけるマナー指導など効果を上げることができた。
		就職、公務員試験に向け基礎学力や一般常識を確実に身に付ける。	A		
		進路指導部や公営塾と連携し、多様な分野の進学指導を充実する。	A		
	社会人への進化を図る。	公の場での服装、言葉遣いを確立する	B		

別紙様式 2（高）

		正しい判断で自立した行動ができるようにする。	B		・学校行事やクラス活動において共存や協調の意識が高まり、主体的に取り組む環境が醸成できた。
	高校生活の集大成を図る。	最終学年として、学校行事、クラス行事に積極的に取り組ませる。	A		
		お互いを認め合い、共存することを意識できる。	A		

※ 評価規準： A： たいへん良くできた B： 良くできた C： 普通 D： やや不十分 E： 不十分